九州大病院別府病院の治療・研究

からだを読み解く

抗がん剤による脱毛の予防法

「頭皮冷却装置」導入 徐々に

完全ではないが効果あり

外科助教
安東由貴

乳がんにおける化学療法（抗がん剤）では、毛髪が抜けるのをいかに軽減するかが課題となっている。最近の予防法について、安東由貴外科助教に聞いた。

×　×　×

乳がんは日本人女性の罹患率が部位別で最も高いがんです。しかしながら、早期に発見し適切な治療を行えば長期の生存が期待でき、治る可能性が高いものです。治療を終えた後も多くの方が仕事や家庭、社会生活を続けながら人生を歩んで行きます。そのため、治療効果だけでなく、治療中やその後の生活の質を守る視点が重要となります。

乳がん治療の一つに抗がん剤の投与があり、脱毛がほぼ確実に起きることが副作用として知られています。2013年に報告された、国立がん研究センター中央病院で治療を受けた乳がん患者へのアンケート調査では、治療に対する苦痛や不安の理由として、脱毛が最多でした。

脱毛は、治療開始から2～3週間で始まり、多くの方で頭髪の大半が抜け落ちます。防ぐのに確実な方法はなく、ウィッグを用いて自然な回復を待つ以外ありませんでした。また、中には抗がん剤治療が終わっても十分に発毛せず、長期間にわたり脱毛の苦しみを抱える方もいます。

こうした中、近年「頭皮冷却装置」が注目されています。頭にかぶる専用のキャップ内にマイナス4度の冷却水を循環させて、抗がん剤投与中の頭皮を約19度に下げるものです。毛根周辺の血管を収縮させることで頭皮の血流が低下、毛髪の元である毛母細胞の代謝を落として抗がん剤の取り込みを抑制します。

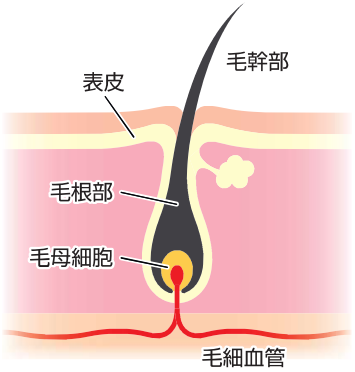
頭皮冷却装置は、1973年に英国で初めて開発され、その後、日本では2020年に医療機器として薬事承認されました。21年の「がん治療におけるアピアランスケアガイドライン」でも、周術期に化学療法を行う乳がん患者に対して科学的根拠のある治療法として推奨されています。

この装置は、抗がん剤による脱毛を完全に予防するわけではありません。しかし、実施した48％の方に予防効果があり、さらに30％の方が抗がん剤治療時にウィッグを購入せずに過ごせたという報告があります。

もう一つの効果として治療終了後の再発毛が早いことや、髪質の変化が少ないという報告もあります。外見の変化を最小限に抑えることで、患者さんの心理的負担の軽減につながると考えられます。

現在は自費診療であるものの、頭皮冷却装置の導入は全国的に徐々に進んでいます。今後、脱毛への不安で化学療法をためらう患者にとって、選択肢に一つになることが期待されます。

頭皮の構造



● 頭皮を冷やすことで血管を収縮させ、毛母細胞が抗がん剤を取り込むのを抑える

抗がん剤による脱毛を抑制する頭皮冷却装置（毛髪クリニックリーブ21提供）

(c)大分合同新聞社　無断複製転載を禁じます。